

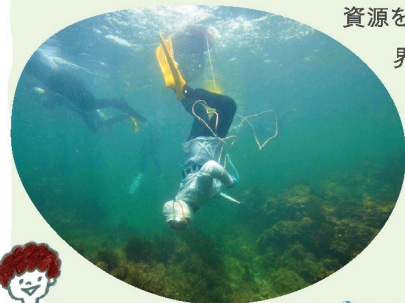


海女文化

志摩市の海女文化は「海女 (Ama) に出逢えるまち 鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」として日本遺産に認定されています。

豊かな海産物に恵まれたこの地域で、素潜りでアワビ、サザエや海藻を獲る海女漁。約2,000年前から続くこの営みは、乱獲を戒める独自のルールで海の

資源を守ってきた、世界でも日本と韓国のみ現存する希少な漁法です。



潮かけ祭り ◀旧6月1日

約800年の伝統を誇る奇祭。海上安全と大漁の祈願が終わると、船上で激しく海水を掛け合う“天下ご免”の潮かけが行われ、辺りは熱狂的な興奮に包み込まれます。潮を浴びることで穢れを落とすとされ、とても盛り上がる祭りです。



伊勢えび祭 ◀6月第1土曜日

海の幸への感謝と豊漁を願って行われる祭り。巨大な伊勢えびのみこしや軽やかなリズムにのせて踊る「じゃこっぺ踊り」を中心に、夜まで盛大なイベントが続きます。



つなぐ時

いにしえ 古の文化が今に輝く



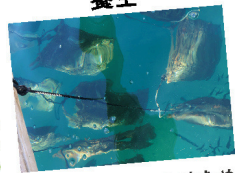
貝・海・人が紡ぐ、一粒の奇跡。

みきもとこうきち 御木本幸吉が真珠養殖の実験を開始したのが、ここ英虞湾。この産業が100年以上守り抜いてきたのは、地形の利だけでなく「自然と人の共同作業」の歴史です。かつて、真珠づくりは海女の献身なしには成立しませんでした。彼女たちは深い海へ潜り、天然のアコヤガイを確保しては、核入れ後や浜揚げの際にも命がけで貝を運び、真珠養殖のはじまりの時代を支えたのです。

時代は移り技術は進化しましたが、本質は変わりません。日々、貝の微かな呼吸や海の環境を読み解き、最適な状態へと導く養殖業者の眼差しがあります。効率が優先される時代にあっても、「貝・海・人」が呼吸を合わせることで、一粒の輝きが今も紡ぎ出されています。



真珠が生まれるまで



核入れの傷をいやすため流れの少ない静かな海で栄養豊富なプランクトンを食べ成長する。



真珠は、ただ、ほっとくだけじゃ光らん。人の手と、この海があって初めて、志摩の宝になるんさ。



真珠養殖の動画はこちらからご覧いただけます!



いざわのみや おたうまつり 伊雑宮御田植祭 ◀6月24日

「磯部の御神田」は国指定重要無形民俗文化財で、日本三大御田植祭の一つとされている祭り。神事に登場する役人は毎年、担当地区から選出され、「竹取神事」「御田植神事」「踊込み」など、勇壮かつ優雅な情景を繰り広げ多くの観光客を魅了します。



わらじ祭り ◀9月申の日

村中を荒らす巨人ダンダラボッチを退散させたという民話のもとに、大わらじを造り、大漁と平穏無事を祈願し、海へと流す祭りで、神事は県の無形民俗文化財に指定されています。



安乗の人形芝居 ◀9月の第2土曜日・日曜日

国指定重要無形民俗文化財で、400年以上にわたり伝承されている伝統芸能の人形芝居。安乗神社境内の舞台上演され、喜怒哀楽の表現が素朴で大胆かつ野趣に富むという特徴を持っています。

